

岩手県産アカマツ集成土台の性能評価（Ⅲ） － 乾式および湿式防腐処理による寸法変化の違い －

1. はじめに

アカマツ集成土台の製造技術を開発するため、前号（297号）に続き、乾式※および湿式※※処理により、木材保存剤を加圧注入した場合の寸法変化量を測定したので報告する。
なお、本試験は、（協）ノルトヴィンおよび三陸木材高次加工（協）の協力の下、実施した。

2. 実験方法

（1）供試材料（詳細は296号と同様）

岩手県産アカマツ同一等級構成集成材を試験に供した。集成材の寸法は105×105×2000mmとした。

（2）加圧注入

減圧加圧含浸装置（写真）を用い、集成材に木材保存剤を加圧注入した。加圧注入方法は、湿式処理と乾式処理の2種類とし、圧力は0.9～1.5MPa、加圧時間は2～3時間とした。また、試験体数は36とした。

（3）寸法測定

加圧注入前と、注入および養生後に、試験体の中央部および両木口から30cm部の3か所において、幅と厚さを測定した。また、試験体中央部において、そりを測定した。

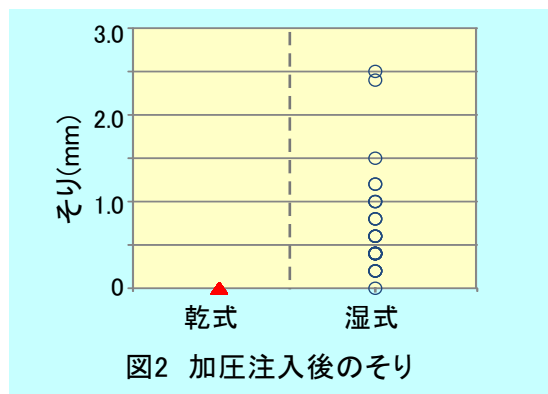
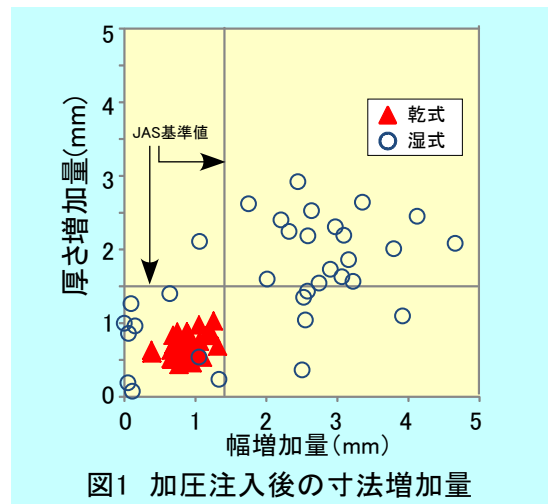
3. 結果

乾式処理の場合、寸法増加量は最大でも1.4mmであり、全ての試験体でJASの基準※※（1.5mm）を満たしていた。また、そりも0mmと小さかった。一方、湿式処理の場合、寸法増加量は最大で4.7mmを示し多くの試験体でJASの基準値を上回った。また、そりも最大で2.5mmを示した。

4. 成果と今後の進め方

湿式処理によるアカマツ集成土台の製造において、JASの寸法の基準を満たすためには、仕上げ加工が必須であり、その切削量は仕上げ寸法の約4%が適当と推察された。

今後は薬剤の注入量等に関して試験を行う予定である。



- ・乾式処理※ : 溶媒に水を用いない方法。
- ・湿式処理※※ : 溶媒に水を用いる方法。
- ・JASの基準※※※
表示寸法と測定寸法の差：-0.5～1.5mm（小断面）

（担当者 研究部 主任専門研究員 大橋一雄）

連絡先	〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス：http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/	TEL 019-697-1536 FAX 019-697-1410
-----	---	--------------------------------------